

平成23年4月28日(木)

平成23年3月期 決算説明資料

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

Kaneka

目次

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 売上高	P.	5
• 営業利益	P.	7
• 連結貸借対照表	P.	9
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	10
• 為替変動の影響	P.	11
• 海外売上高	P.	12
• セグメントの状況	P.	13
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	17
• 業績予想	P.	18
• トピックス	P.	20

業績概要

(単位：億円)

	22年3月期	23年3月期	増減額	23年3月期 前回予想
売上高	4,125	4,538	413	4,500
営業利益	175	212	37	230
経常利益	163	210	46	210
当期純利益	84	116	32	110

主要指標

	22年3月期	23年3月期
・ 売上高営業利益率	4. 2%	4. 7%
・ 売上高経常利益率	4. 0%	4. 6%
・ 売上高当期純利益率	2. 0%	2. 6%
・ 1株当たり当期純利益	24. 78円	34. 28円
・ ROE	3. 4%	4. 6%
・ ROA	3. 8%	4. 7%

	22年3月期末	23年3月期末
・ 自己資本比率	57. 6%	55. 4%
・ 1株当たり純資産	735. 17円	743. 88円
・ 有利子負債	636億円	666億円
・ D/Eレシオ	0. 25	0. 26

売上高

(単位：億円)

	22年3月期	23年3月期	増減額
<セグメント別>			
化成品	796	855	59
機能性樹脂	611	700	89
発泡樹脂製品	544	586	43
食品	1,198	1,238	40
ライフサイエンス	392	475	83
エレクトロニクス	365	412	48
合成繊維、その他	220	272	52
計	4,125	4,538	413

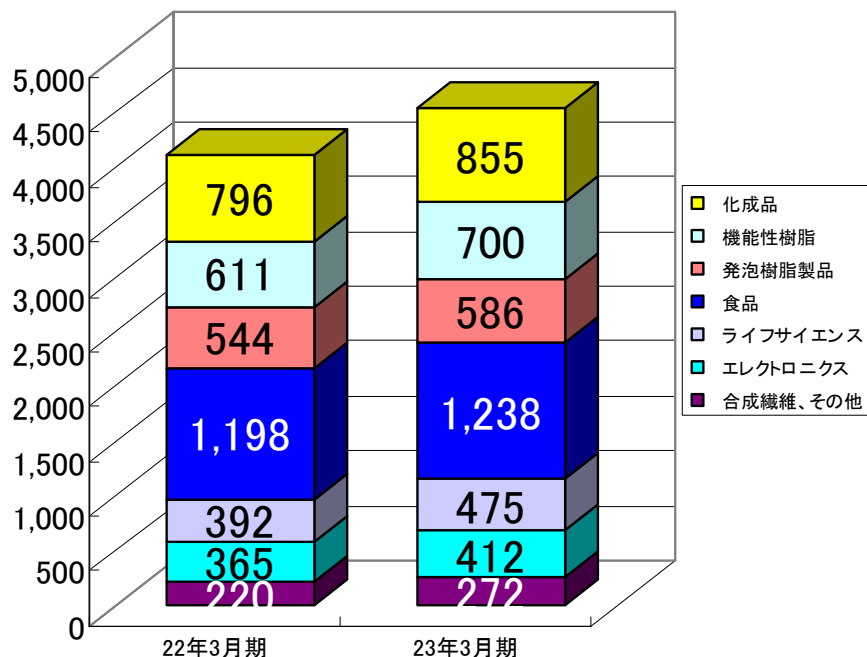
<単独・子会社別>			
単独	2,407	2,577	170
国内子会社	2,401	2,659	258
海外子会社	716	826	110
消去	△1,400	△1,524	△125
計	4,125	4,538	413

※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前連結会計年度はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

売上高

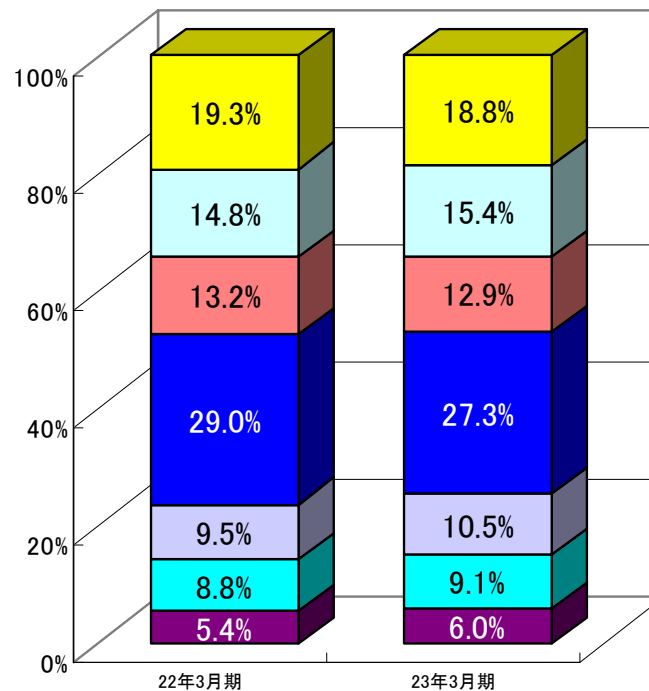
セグメント別売上高

(億円)



セグメント別売上高: 構成比

(%)



※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前連結会計年度はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

営業利益

(単位：億円)

	22年3月期	23年3月期	増減額
<セグメント別>			
化成品	19	28	8
機能性樹脂	90	83	△ 7
発泡樹脂製品	51	62	11
食品	89	80	△ 9
ライフサイエンス	45	93	47
エレクトロニクス	△67	△58	9
合成繊維、その他	14	8	△ 7
消去・全社費用	△68	△83	△ 15
計	175	212	37

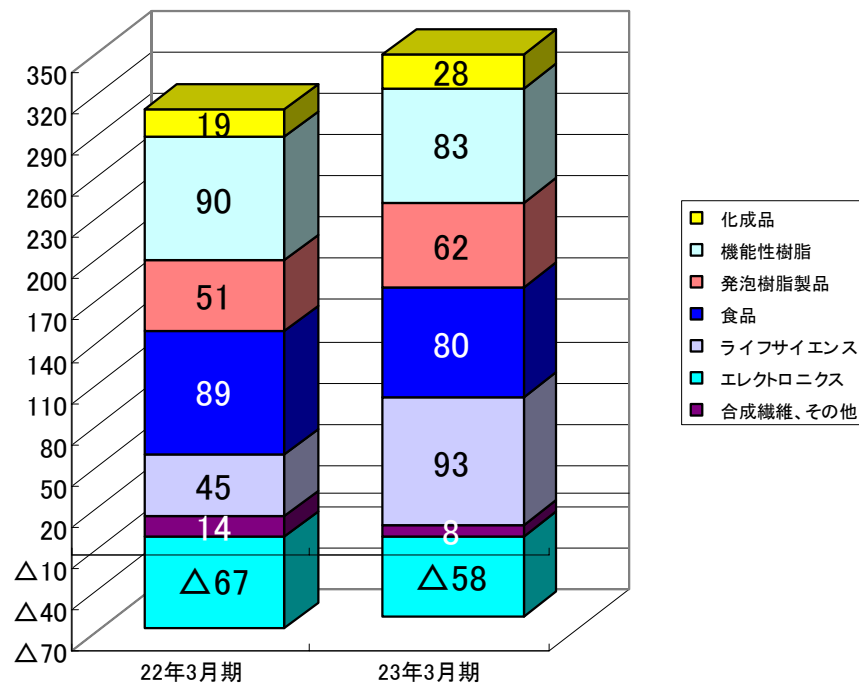
<単独・子会社別>			
単独	38	26	△ 12
国内子会社	103	132	29
海外子会社	58	79	21
消去	△24	△24	△ 0
計	175	212	37

※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前連結会計年度はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

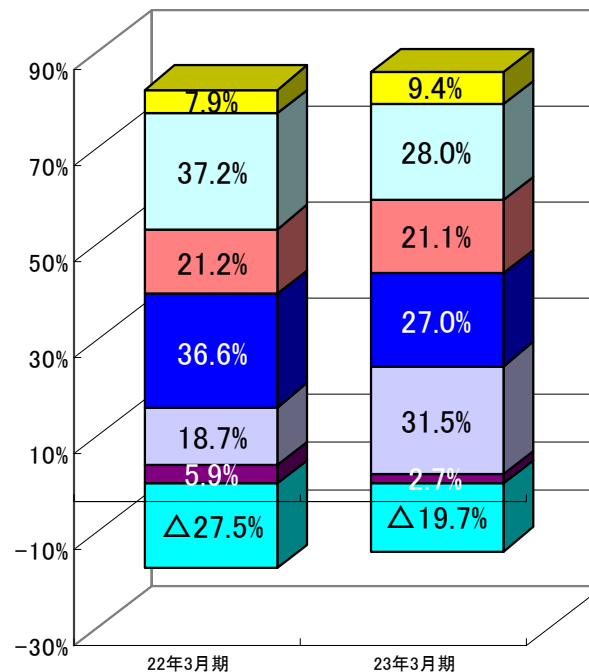
営業利益

セグメント別営業利益

(億円)



セグメント別営業利益: 構成比 (%)



※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前連結会計年度はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

連結貸借対照表

(単位：億円)

		22年3月期末	23年3月期末	増減額
資産	流動資産	2,081	2,224	143
	固定資産 等	2,247	2,327	80
	合計	4,329	4,551	223
負債	有利子負債	636	666	30
	その他	1,121	1,267	146
	合計	1,757	1,933	176
純資産	自己資本	2,494	2,521	27
	少数株主持分 他	78	97	19
	合計	2,572	2,618	47
負債、純資産 合計		4,329	4,551	223

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	22年3月期	23年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	574	349	△ 225
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 256	△ 349	△ 93
フリー・キャッシュ・フロー	318	△ 0	△ 318
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 168	△ 43	125
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	152	△ 35	△ 187
現金及び現金同等物の期末残高	405	370	△ 35

為替変動の影響

【期中平均レート】

(単位：円)

	22年3月期	23年3月期
U S \$	92.89	85.73
E U R	131.18	113.12

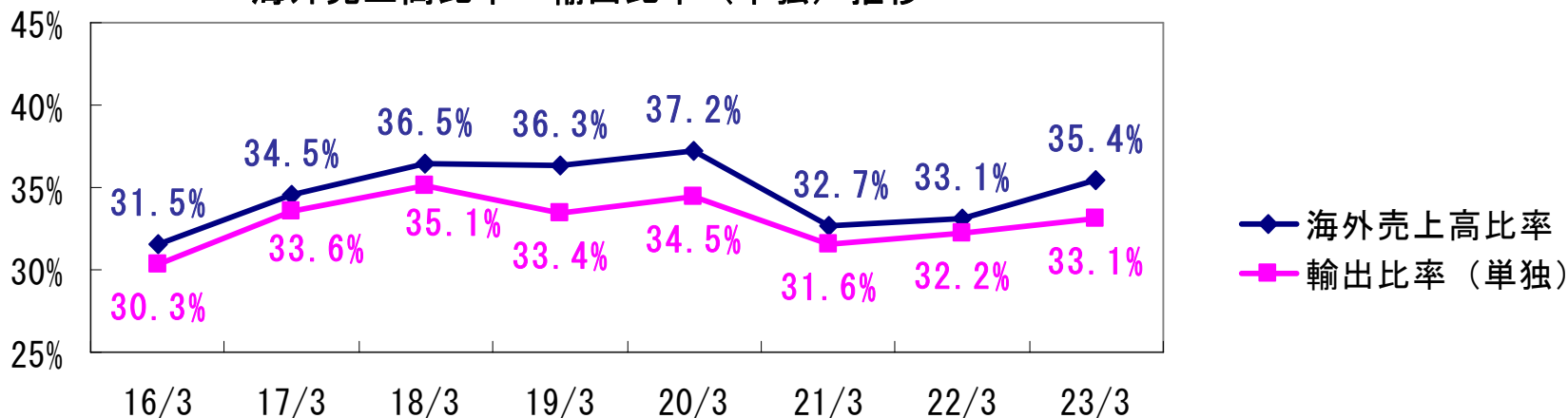
【通貨別影響額】

(単位：億円)

	売上高	営業利益
U S \$	△67	△25
E U R	△60	△18

海外売上高

海外売上高比率・輸出比率（単独）推移



地域別海外売上高 (単位：億円)

地域	22年3月期	23年3月期	増減額	増減率
アジア	599	692	93	+15.5%
北米	245	291	46	+18.9%
欧州	369	450	81	+22.1%
その他	150	174	24	+15.8%

○化成品事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	796	855	59
営業利益	19	28	8

塩化ビニール樹脂は、国内及びアジア市場の需要回復を背景に販売数量が堅調に推移し、輸出市況の改善に加え原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正にも注力しました。か性ソーダは、国内市況・海外市況ともに低調に推移しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内及びアジア市場の販売数量が増加するとともに、販売価格の修正に加えコストダウン等も寄与しました。以上の結果、当セグメントの売上高は85,467百万円と前連結会計年度と比べ5,916百万円（7.4%増）の増収となり、営業利益は2,763百万円と前連結会計年度と比べ840百万円（43.7%増）の増益となりました。

○機能性樹脂事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	611	700	89
営業利益	90	83	△ 7

モディファイヤーは、アジア及び欧米市場の需要回復により販売数量が増加し、製品差別化力の向上及びコストダウンにも努めましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受け、増収ながら減益となりました。変成シリコンポリマーは、日本の需要回復と欧米市場の需要拡大により販売数量が増加しましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を吸収しきれず、増収ながら減益となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は69,992百万円と前連結会計年度と比べ8,856百万円（14.5%増）の増収となりましたが、営業利益は8,296百万円と前連結会計年度と比べ743百万円（8.2%減）の減益となりました。

○発泡樹脂製品事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	544	586	43
営業利益	51	62	11

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産用途の需要が低調に推移しましたが、原燃料価格の上昇に対応して販売価格の修正を図るとともに、製造コストダウンや経費削減に徹底して取り組みました。押出發泡ポリスチレンボードは、住宅着工の回復や住宅版エコポイントの導入を背景とした国内の断熱建材用途の需要拡大により販売数量が増加しました。ビーズ法発泡ポリオレフィンも、アジア及び欧州市場の販売数量が増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は58,630百万円と前連結会計年度と比べ4,265百万円（7.8%増）の増収となり、営業利益は6,229百万円と前連結会計年度と比べ1,080百万円（21.0%増）の増益となりました。

○食品事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	1,198	1,238	40
営業利益	89	80	△9

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景として需要が伸び悩む中で、新製品拡販などにより販売数量が増加し、コストダウン等による収益確保にも注力したものの、競争激化に伴う販売価格の下落と原燃料価格の上昇の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は123,781百万円と前連結会計年度と比べ4,000百万円（3.3%増）の増収となりましたが、営業利益は7,960百万円と前連結会計年度と比べ923百万円（10.4%減）の減益となりました。

○ライフサイエンス事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	392	475	83
営業利益	45	93	47

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大し、増収増益となりました。医薬バルク・中間体は、海外向けの販売数量が増加し、増収増益となりました。機能性食品素材は、既存製品の販売数量が前期を下回ったものの、高機能品の販売数量が米国市場を中心に着実に増加し、コストダウンも寄与して増収増益となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は47,517百万円と前連結会計年度と比べ8,330百万円(21.3%増)の増収となり、営業利益は9,279百万円と前連結会計年度と比べ4,734百万円(104.2%増)の大幅な増益となりました。

○エレクトロニクス事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	365	412	48
営業利益	△67	△58	9

液晶関連製品は、販売数量が前期並みとなりましたが、超耐熱性ポリイミドフィルムは、多機能携帯電話用途などの需要拡大に伴い販売数量が増加しました。太陽電池は、欧州市場では競争の激化に伴う販売価格下落の影響を受け、販売数量も前期を下回りましたが、国内市場向けの販売数量は着実に増加し、アジア向け輸出も増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は41,225百万円と前連結会計年度と比べ4,750百万円(13.0%増)の増収となり、営業損失は5,815百万円と前連結会計年度と比べ883百万円縮小しました。

○合成繊維、その他事業

(単位：億円)	22年3月期	23年3月期	増減額
売上高	220	272	52
営業利益	14	8	△ 7

合成繊維は、海外需要の拡大により販売数量が増加し、高付加価値品の増販やコストダウンによる収益確保に努めましたが、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けました。また、その他事業は、減収ながら増益となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は27,211百万円と前連結会計年度と比べ5,217百万円(23.7%増)の増収となりましたが、営業利益は787百万円と前連結会計年度と比べ657百万円(45.5%減)の減益となりました。

設備投資・減価償却費

○設備投資

(単位：億円)

	22年3月期 実績	23年3月期 実績	24年3月期 予想
設備投資	243	293	400
減価償却費	262	287	340

○主な設備投資

(単位：億円)

23年3月期 実績		24年3月期 予想	
太陽電池生産能力増強(+80MW)	72	塩ビペースト生産能力増強(マレーシア)	17
ユーティリティ関係更新等	20	ユーティリティ関係更新等	15
		モディファイヤー生産能力増強(マレーシア)	8

研究開発費

(単位：億円)

22年3月期 実績	23年3月期 実績	24年3月期 予想
163	183	211

業績予想

(単位：億円)

	23年3月期実績		24年3月期予想		前年比(通期)	
	上期	通期	上期	通期	増減額	増減率
売上高	2,243	4,538	2,300	5,000	462	+10.2%
営業利益	104	212	90	250	38	+17.7%
経常利益	108	210	85	235	25	+12.0%
当期純利益	63	116	45	130	14	+11.8%

今後の世界経済は、米欧など先進国や中国・新興国の景気動向、日本の震災影響など、不透明感が強く、事業環境も先行きが見通し難い情勢にあります。このような経営環境下、当社グループは、事業構造の変革に向けた取り組みをさらに加速させ、収益体質の強化に注力しながら、成長への布石を打っていく所存であります。

【24年3月期：前提条件】

為替：85円/US\$、115円/EUR、国産ナフサ：60,000円/KL

上記の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで合理的であると判断したものです。したがって、見通しには様々な不確定要素が含まれており、実際の業績はこれら見通しと異なる場合があることをご承知おき下さい。

業績予想

【セグメント別】

○売上高

(単位：億円)

	24年3月期予想	
	上期	通期
化成品	430	910
機能性樹脂	400	800
発泡樹脂製品	220	520
食品	620	1,290
ライフサイエンス	250	590
エレクトロニクス	240	610
合成繊維、その他	140	280
合計	2,300	5,000

○営業利益

(単位：億円)

	24年3月期予想	
	上期	通期
化成品	10	30
機能性樹脂	45	90
発泡樹脂製品	15	45
食品	35	75
ライフサイエンス	45	115
エレクトロニクス	△15	0
合成繊維、その他	5	10
消去・全社費用	△50	△115
合計	90	250

【24年3月期：前提条件】

為替：85円/US\$、115円/EUR、国産ナフサ：60,000円/KL

上記の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで合理的であると判断したものです。したがって、見通しには様々な不確定要素が含まれており、実際の業績はこれら見通しと異なる場合があることをご承知おき下さい。

- 酸化型コエンザイムQ10に関する米国特許侵害訴訟提起について — 4月1日
- 中国における販売会社の開業式を開催
 - アジア戦略の核とすることにより、当社のグローバル展開を加速 — 3月1日
- 有機EL照明デバイスを国内及び欧州で今春より商業販売開始
 - 世界初、白(温暖色)・赤・橙・青・緑の5色をラインアップ — 2月16日
- PTAバルーンカテーテル、テルモ株式会社へのOEM供給に関する契約を締結
 - 欧州市場での早期拡販を目指して — 2月3日
- 血栓吸引カテーテル、日本メーカーとして初めて米国で販売開始
 - Atrium Medical Corporationと独占的販売代理店契約を締結 — 2月2日
- 中高齢女性における、日常身体活動量及び精神的健康度に対する還元型コエンザイムQ10の効果について
 - 早稲田大学及び筑波大学との共同研究で確認 — 2月1日
- アクリル系合成繊維「カネカロン®」フェイクファー用途の画期的な新素材を本格販売
 - パイル糸の脱落(毛抜け)を大幅に改善 — 1月27日
- 塩化ビニールペースト樹脂事業、マレーシアで生産能力を増強
 - アジアでの旺盛な需要に対応し、年産60,000トンへ — 12月24日
- 神戸大学と株式会社カネカとの包括的な産学連携推進に関する協定締結について — 12月16日
- インフルエンザウイルス感染に対する還元型コエンザイムQ10の予防効果について
 - 富山大学との共同研究で予防効果を確認 — 12月1日
- 「2010年度グッドデザイン賞」を受賞
 - 化粧スレート瓦専用太陽電池「SOLTILEX™」が高い評価を獲得 — 11月10日
- 酸化型コエンザイムQ10に関する欧州特許侵害訴訟提起について — 10月29日

kaneka